



《現状把握》

- ・国語も算数も平均正答率が全国平均や都平均を下回った。国語は文章の構成である原因と結果など情報と情報との関係を理解することが課題である。算数は、数字や言葉の意味に気を付けてデータを読み取り、活用することが課題である。
- ・生活・学習習慣が全国平均よりも高いことから、規則正しい生活習慣を心掛け、学習習慣も身に付いてきていると考えられる。

《授業改善のポイント》

- ・国語は、物語や説明文を学習する際に原因と結果に着目させたり、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解させたりしていく。
- ・算数は、基礎・基本の定着を図るとともに、言葉や数字に気を付けてデータを正しく読み取る力を育成していく。
- ・授業を通して自己評価を行い、課題を見付け、改善していく力を育成する。

《チャートの特徴》

- ・このチャート図は、「全国学力・学習状況調査」及び「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を表したものである。青線が本校の平均を表し、オレンジ線が全国平均を表している。
- ・「国語への関心」「算数への関心」は共に全国平均よりも下回っている。また、国語と算数を比較すると、国語よりも算数への関心が低くなっている。
- ・「国語平均正答率」は全国平均よりも5.2ポイント下回り、「算数平均正答率」は全国平均よりも8.5ポイント下回っている。
- ・規範意識は全国平均よりもやや下回るが、生活・学習習慣については0.7ポイント上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・「江戸っ子study week」を設定して家庭でもミライシードを活用した復習への取組を働きかける。
- ・アクションプランで自分の課題を見付けて取り組む機会を設ける。
- ・各学級で家庭学習の目安となる時間を伝え、家庭学習の取組について啓発するとともに、放課後補習を充実させる。
- ・学年便りや学校HPを活用して学校の取組や成果を公表するとともに、学習や生活環境の向上への理解を図る。